

コブクロ (ミュージシャン)



【プロフィール】

小渕健太郎 (G & Vo)、黒田俊介 (Vo) によるデュオ。1998 年、大阪の路上でストリートミュージシャンをしていた黒田と小渕が出会い「コブクロ」を結成。2001 年、シングル「YELL〜エール〜/Bell」でメジャーデビュー。2005 年、『第 56 回 NHK 紅白歌合戦』に初出場。メロディラインとハーモニーの美しさで老若男女を問わず人気を集める、日本を代表するボーカルユニット。

【メッセージ】

(小渕健太郎)

大阪で活動をスタートした僕等にとって、2025 年の万博が大阪で開催される事はとても大きな喜びであり、未来への希望を感じました。そのアンバサダーに就任させて頂ける事に誇りを持ち、これからも大阪への想いとそのエネルギーを、音楽を通じて人々に伝える事で、万博の成功に少しでも力を添える事ができればと思っています。ありがとうございます。

(黒田俊介)

僕の生まれ育った街、大阪での万博のアンバサダーに就任させて頂けるという事で、とても光栄です。僕は 1977 年生まれなので 1970 年の万博は残念ながら見ていませんが、テレビや両親から見聞きした万博は夢と希望にあふれていました。万博開催に向かって、大阪を盛り上げていけるよう、全力で頑張っていきたいと思います。

佐渡 裕 (指揮者)



©Takashi Iijima

【プロフィール】

故レナード・バーンスタイン、小澤征爾らに師事。1989 年ブザンソン指揮者コンクール優勝。現在オーストリアを代表するトーンクンストラ管弦楽団音楽監督を務める他、欧州の一流オーケストラに毎年多数客演を重ねている。国内では兵庫県立芸術文化センター芸術監督、シエナ・ウィンド・オーケストラの首席指揮者を務める。

【メッセージ】

1970 年大阪万博当時私は 9 歳。京都市に住む小学生でした。会場に立ち並んだ 116 にも及ぶパビリオンの名前の殆どを暗記していたため学校では「万博博士」と呼ばれていました。幸運にも会期中何度か訪れる機会があり、世界には自分の知らない数多くの民族や言語が存在し、そしてそれぞれ固有の風習、文化を持って生活していることを知りました。人生初となった貴重な万博体験、あの時感じた驚きや感動は、今なお自分の中に鮮やかに残っています。

半世紀以上を経て、科学の進歩によって、世界の国々はぐっと身近になり、日本を訪れる外国人の数も飛躍的に増えました。一方で、地球上で戦争やテロは今も根絶せず、発展と進歩による世界の平和は、残念なことにあの頃描いていたほど現実にはなっていないように感じます。

今回の「大阪・関西万博」では、国と国、人と人がお互いを知り、真の平和と豊かさを追求する未来社会を考える機会となれればと願っています。そして、私がかつて「万博博士」と言われたように、多くの子供たちに夢中になって万博を訪れ、未知の世界に出会ってほしい。そんな思いをこめて「大阪・関西万博」のアンバサダーとして力を尽くしたいと思います。

ダウタウン（タレント）



【プロフィール】

浜田雅功（ツッコミ）と松本人志（ボケ）による漫才コンビ。1982年結成。吉本総合芸能学院（NSC）大阪の1期生として吉本興業に入社。日本のお笑い界をリードするコンビとして後進に多大なる影響を与えている。番組を取り仕切る浜田の自在性に富んだ統率力と、次々と斬新なアイデアで、新たな笑いを追求する松本の発想力が生み出す“旬”な笑いが最大の武器。

【メッセージ】

（松本人志）

「この度は大阪・関西万博のアンバサダーという大役を仰せつかり、ありがたき幸せです。浜田がやる気のない分、僕が頑張ります（笑）」

（浜田雅功）

「浜田やる気満々です！！」

宝塚歌劇団（エンターテインメント）

【プロフィール】

宝塚歌劇団は阪急電鉄の創始者・小林一三により設立され、1914年の最初の公演以来、歌・ダンス・芝居を織り交ぜ、古典から現代劇まで、男性と女性の両方の役を全て女性だけで上演する劇団です。このたびは、創設100周年を迎えた2014年以降入団の若手男役5名が、アンバサダーとして務めさせていただきます。



聖乃 あすか
（せいの あすか 花組）



風間 柚乃
（かざま ゆの 月組）



縣 千
（あがた せん 雪組）



極美 慎
（きわみ しん 星組）



風色 日向
（かぜいろ ひゅうが 宙組）

©宝塚歌劇団

【メッセージ】

このたび大阪・関西万博のアンバサダーという大役を務めさせて頂けることを大変光栄に思っております。宝塚歌劇は1970年の大阪万博でも、所属の演出家の先生が開会式の構成・演出をご担当されたり、大先輩の現役生たちもイベントに参加されたりするなど、深い縁があります。大役ではありますが、55年前の大先輩方のバトンを受けて、万博がより華やかに盛り上がりますよう、そして宝塚に限らず関西発祥の、そして日本の素晴らしい文化をより世界に知って頂けますよう、一生懸命務めたいと思います。

松本 幸四郎（歌舞伎役者）**【プロフィール】**

1973年1月8日東京生まれ。

父は二代目松本白鸚。息子は八代目市川染五郎。

6歳で三代目松本金太郎を名乗り初舞台、8歳で七代目市川染五郎を襲名。

2018年1月・2月歌舞伎座にて勸進帳「武蔵坊弁慶」他で十代目松本幸四郎を襲名。

2019年6月三谷幸喜作・演出の新作歌舞伎『月光露針路日本 風雲児たち』大黒屋光太夫役で主演。

映画『阿修羅城の瞳』『蝉しぐれ』、テレビドラマ『妻は、くノ一』など。日本舞踊松本流家元、日本舞踊協会理事。

【メッセージ】

このたび、2025年に開催される大阪・関西万博のアンバサダーに就任させていただくことになり、大変光栄に思っております。同時に、その責務の大きさに身が引き締まる思いであります。

大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」であり、近年、人生100年時代といわれる中であって、自然環境や少子高齢化など日本のみならず世界的な社会課題を解決するための提案の場として、この大阪・関西万博が開催される意義は大きいものを感じています。

また、万博の開催を機に、世界中の国々から多くの方が日本を訪れます。これを機に、歌舞伎をはじめとした日本の伝統芸能・文化の素晴らしさを世界に発信する絶好の機会ではないかと思えます。アンバサダーとして、大阪・関西万博の成功に貢献できるよう精一杯務めさせていただきます。

山中 伸弥（京都大学 iPS 細胞研究所 所長・教授）**【プロフィール】**

京都大学 iPS 細胞研究所 所長・教授。米国グラッドストーン研究所上席研究員兼務。

iPS 細胞技術の医療応用を実現するために、iPS 細胞を用いた病態解明や創薬、再生医療などの革新的研究を推進している。

【メッセージ】

この度、2025年大阪・関西万博のアンバサダーを仰せつかり、大変に光栄です。1970年の大阪万博のときはまだ8歳でした。「太陽の塔」や「月の石」などの展示に幼いながらも心から感動したのを覚えています。科学の「未来」というのを感じて本当にワクワクしました。その後、科学者を目指し始めたのは、万博の影響も大きかったのだと思います。今回の万博でも、次世代を担う子どもたちにとってすばらしい刺激になることを願っています。現在、日本は急速に少子高齢化が進んでいることもあり、健康長寿社会の実現などが課題です。この万博では、テーマである「いのち輝く未来社会」に向けた解決モデルを世界に提示できる絶好のチャンスです。私としても、2025年には進歩したiPS細胞の姿を世界に示すことが出来たらと考えています。そして、万博を成功させるため、大阪・関西万博のアンバサダーという役割も精一杯務めさせていただきます。